

6-2-1 田中大秀翁という人

田中大秀翁は、安永6年（1777）8月、高山一之町の薬種商に生まれた。現在、下一之町鍋島茶舗になっている場所である。

幼少より学問に長じ、25歳の時、伊勢松阪の本居宣長に入門し国学を研究した。国学とは、江戸中期に興った復古主義的文学運動で、我国の民族精神の根元である古道を「古典」の中に追求しようとしたものである。大秀翁はたくさんの研究書を著し、当時の国学者番付では、最高位に位置付けられるほどの評価を得ている。代表著書は『竹取翁物語解』で、現在でもレベルの高い注釈書として学会に通用している。当時、大秀翁を慕って全国各地から入門者があり、多くの門弟を育てて郷土の教育文化に大きく貢献をした。

大秀翁の著述本や、手沢本、古今珍籍名著本など1,516冊は、「荏野文庫」として岐阜県の文化財に指定されている。

リーフレットより